

# 高知県における看護師需給の見通しと 閉校準備過程における本校の現状

吉川明美<sup>†</sup> 先山正二<sup>\*</sup>第77回国立病院総合医学会  
2023年10月21日 於 広島

IRYO Vol. 78 No. 6 (393-397) 2024

## 要旨

国立病院機構高知病院附属看護学校（本校）は令和8年3月31日をもって閉校の運びとなる。高知県は四国の南半分を占める横に広大な地形で、人口のほとんどがその中央の高知市に集中し、近年の出生数減少や若年層の県外流出により人口減少が続いている。県内には3年課程の看護師養成所が6校、5年一貫校が2校、看護学部をもつ県立・国立大学がそれぞれ1校ずつと短期大学が1校あるが、定員充足に向けた学生確保困難と、新卒看護師の県内への就職率が目標値75.0%を下回る60.5%と厳しい状況にある。一方養成所では教員要件を満たした教員配置ができず、全養成所が看護教員採用に困難感を抱くなど多くの課題を抱え学校運営をしている。

高知県は看護師確保対策推進と同時に継続的な看護教員養成に向け、令和6年度県で初めて看護教員養成講習を開講するための新規事業を発足した。本校教員は看護基礎教育歴も長く、その教員達が国立病院機構（NHO）の養成所で培ってきた教育実践力は、グループ内だけでなく今後は県内の看護基礎教育を受け継ぐ人材の育成にも関心を向け、本校の教育の特徴を活かした支援ができると考えている。

閉校までの本校としての役割を考えた時、母体病院とのより一層の協働は不可欠であると考えている。看護部をはじめ病院組織のさまざまな部門の「人を育てる」場に、教職員をはじめ時には学生も参加し、互いに高め合えることを実現していきたい。実習指導者育成や特定行為研修への協力など、自施設の看護の質の向上への働きかけこそ教員自身はその教育実践力を幅広く柔軟に発揮できる機会であり、キャリア形成への動機付けになることも期待したい。

**キーワード** 看護師確保，高知県，人材育成

国立病院機構高知病院附属看護学校（本校）は、昭和38年9月に定員40名の進学課程として発足した。平成24年に創立50周年を迎え、令和5年3月ま

で進学課程、3年課程あわせて2,198名の卒業生を高知県内外の医療施設に輩出してきたが、令和5年4月に最後の新入生28名を迎え入れたのち、令和8

国立病院機構高知病院附属看護学校 教育主事 \*学校長 †教員  
著者連絡先：吉川明美 国立病院機構高知病院附属看護学校 教育主事  
〒780-8507 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号  
e-mail: yoshikawa.akemi.ep@mail.hosp.go.jp  
(2024年3月25日受付 2024年12月20日受理)

Outlook for the Supply and Demand of Nurses in Kochi Prefecture and the Current Status of Our School in the Preparation Process for School Closure

Akemi Yoshikawa and Shoji Sakiyama

Nursing College Affiliated with NHO Kochi National Hospital

(Received Mar. 25, 2024, Accepted Dec. 20, 2024)

Key Words: securing nurses, Kochi Prefecture, human resource development